

「湖の魚」安全をPR

北浦湖畔で魚祭り



家族でゴミ拾いに参加しました

霞ヶ浦・北浦の安全で美味しい魚と環境保全をアピールするために、10月6日、山田地区の北浦湖畔において、湖の魚祭り実行委員会（方波見和夫会長）による「湖の魚祭り」が漁業関係者や地元市民など約500人が参加して開催されました。

魚祭りは、北浦の環境への関心を高めてもらおうと、湖畔のごみ拾いからスタート。山田川を挟んで2班に分かれて、湖岸清掃に汗を流しました。

会場では、魚のふれあい体験、湖の魚の加工品展示即売、魚の水槽展・パネル展示コーナーなども設けられ、子どもたちも元気に魚の観察やウナギ、フナなどのつかみ取りをしました。



新鮮なワカサギのフライなどを試食

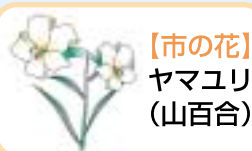


とったぞー！ウナギのつかみ取り

を契機に元氣を取り戻したい」とあいさつ。また、橋本昌県知事からは「国や県と地元市民が一体となって『湖の魚』の安全・安心のPRや環境保全に努めたい」とあいさつされました。

その後関係者とともにウナギとフナの種苗放流が行われました。

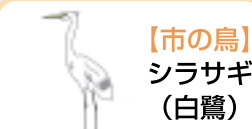
昼食時には、ワカサギや川エビの天ぷら、シラウオのみそ汁、鯉の旨煮などが参加者に振舞われ、休日を楽しむ家族連れで賑わいました。



【市の花】
ヤマユリ
(山百合)



【市の木】
イチヨウ
(銀杏)



【市の鳥】
シラサギ
(白鷺)

霞ヶ浦北浦の魚たち

在来魚 (昔から霞ヶ浦・北浦にいた魚)



ワカサギ (～15cm)

霞ヶ浦北浦を代表する重要な魚種で、昔は帆引き網漁業、現在では主にトロール漁業により漁獲されます。産卵は1～2月で、水深1m前後の砂地に産卵します。



シラウオ (～10cm)

多くは汽水湖や海の沿岸域にすんでいます。霞ヶ浦北浦では一生を淡水域で過ごし、トロール、さし網漁業で漁獲されます。産卵は3～4月で、水深1m前後の砂地に産卵します。



テナガエビ (～10cm)

オスの一部は第2脚が体長の1～1.8倍以上の長さになることから、この名前が付けられました。産卵は6～9月で、産卵後に親の多くは死亡します。



コイ (～60cm、まれに100cmを超える)

大型魚として知られ霞ヶ浦北浦でも1mを超えるものが時折獲られます。養殖されているコイは、野生型よりも体高が高く、成長が早い特長があります。産卵は5～6月で、卵を水草やその他の浮遊物に附着させます。



ウナギ (～1m)

シラスウナギとよばれる全長6cm前後の時に群れをなして海から上がって、湖や川で5～12年を過ごし、秋に産卵のために海に降ります。産卵場は、まだ確認されていませんが、南太平洋と言われています。



ギンブナ (～25cm)

関東地方にはオスはいませんが、卵は他の魚の精子の刺激によって発生します。産卵は3～7月で、岸辺の水草等に産卵します。

霞ヶ浦北浦水産振興協議会

写真提供：茨城県内水面水産試験場